

シンポジウム 防災・減災と報道の役割

<日時>

2009.12.19 (土) 10:00-18:00

<場所>

関西大学 千里山キャンパス

<参加者>

- ①「仙台メディア防災勉強会」(世話人:今村文彦・東北大教授)
- ②「しずおか防災コンソーシアム」(世話人:岩田孝仁・静岡県危機報道監)
- ③「マスメディアと研究者のための地震災害に関する懇話会<通称: NSL>」(世話人:福和伸夫・名古屋大教授)
- ④「減災勉強会 愛称: 関西なまずの会」(世話人:矢守克也・京大防災研究所教授)
ほか自治体防災担当者、災害ボランティアら

<開催趣旨>

連動や同時発生が懸念される東海・東南海・南海の3つの地震。

そして、99%という非常に高い発生確率で注目を集める宮城沖地震。

いずれもひとたび発生すれば、<スーパー広域災害>を引き起こす恐れがある巨大地震です。

こうした災害に向けて、4つの地域で自然発生的に生まれた「減災勉強会」(上記グループ)。

メディア、研究者、そして行政マンらが従来の重い壁を取り払い、日々暗中模索しています。

今回のシンポジウムでは、こうした4つのグループが初めて一堂に会し、これまでの問題点や、今後の課題などをテーマに地域を越えて意見を交換します。

また、日ごろ否定的にも見られている

<メディア v s 行政> <メディア v s 研究者> といった対立軸を減災に向けて、どのようにベクトルの方向を変えていけるのか、知恵を出し合います。

<プログラム>

10:00 開会

10:10-12:10 各グループからの活動報告①

13:00-13:40 各グループからの活動報告②

14:00-15:30 分科会

15:30-16:30 分科会からの報告

16:30-18:00 全体討論会

18:00- 懇親会

<問い合わせ先>

毎日放送・太田尚志(takashi@mbs.co.jp)

